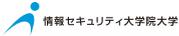


Welcome to ISS square

世界に通用する情報セキュリティスペシャリストを育成しよう。
情報セキュリティスペシャリスト教育のスタンダードを世界に向けて発信しよう。
学界・産業界の枠を超え、大きな使命感を共有した斯界の第一人者たちの力を集結しました。



プログラム連携各機関からみなさまへ

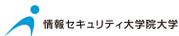


情報セキュリティ大学院大学
学長
情報セキュリティ研究科長
教授
ISSスクエア代表

後藤 厚宏
Atsuhiko Goto

情報セキュリティが対象とする領域は日々膨張しています。この広い技術領域に取り組むためには、大学や企業、研究機関の相互の協力が必須です。本プログラムは、組織を超えて研究者・技術者が連携し、情報セキュリティ分野における世界最高水準の人材を育成するプログラムです。充実した講義群により、幅広い学ぶとともに、企業や研究機関でのインターンシップや、実務家からの最新情報を交換しあうオムニバス講義、分野横断型研究会を通して、未知な課題にチャレンジできる能力を身につけることができます。また、学生、実務家、教員に跨って形成できるコミュニティは一生の財産になります。本プログラムを活用して、情報セキュリティにおける世界のスペシャリストとして活躍されることを期待しています。

1984年東京大学・工学博士。NTTおよびICOTにて並列マシンの研究開発に従事。90年代に米国でNTT研究所分室を開設し、Web応用プロジェクトを推進。帰国後、新規インターネット事業を立ち上げ。研究所長としてセキュリティ、クラウド、メディア処理の研究開発を推進。2011年7月より情報セキュリティ大学院大学教授。2017年4月より同学長。情報処理学会フェロー。



情報セキュリティ大学院大学
情報セキュリティ研究科
教授

有田 正剛
Seiko Arita

情報セキュリティ大学院大学では、2004年の開学以来、新しい学問の体系化と専門家の育成を旗印に、情報セキュリティ専門の大学院大学として教育と研究に携わってきました。このISSスクエアプログラムでは、情報セキュリティの現場で活躍されている、多くの連携企業の方々にご協力頂き、時代に即応した専門知識と実務的能力を兼ね備えた人材を育成するためのプログラムを用意しています。あなたもぜひ、このISSスクエアに参加して、個別の修士論文テーマの追及だけでは得難いような、幅広い視野とタイムリーな課題意識そして横断的人脈を培ってください。

京都大学大学院理学研究科数学専攻修了、中央大学大学院理工学研究科情報工学専攻修了。博士(工学)。日本電気株式会社インターネットシステム研究所主任研究員を経て、2004年4月より情報セキュリティ大学院大学教授。主な研究対象領域は、暗号理論。



(国研)情報通信研究機構
サイバーセキュリティ研究所
所長

宮崎 哲弥
Tetsuya Miyazaki

身の回りのモノがネットワークにつながるIoT時代の利便性の陰で、セキュリティ対策が喫緊の課題となっています。さらにIoT機器から集約されたビッグデータの利活用にあたって、情報漏えいやプライバシーの問題などサイバーセキュリティが扱う課題は日々拡大しています。情報通信研究機構ではこのような課題に対して産学との緊密な連携により研究開発を進めています。ISSスクエアでチャレンジされる皆様が、巧妙化するサイバー攻撃から我が国を守るエキスパートとなれることを期待します。

2002年(独)通信総合研究所入所(現 NICT)。超高速光通信、全光信号処理、光ネットワークの研究に従事。2016年4月より現職。



沖電気工業(株)
経済・政策調査部
上席主幹

杉尾 俊之
Toshiyuki Sugio

"Open up your dreams"、OKIのブランドスローガンは、世界の人々の心豊かで安心、安全な夢の社会への扉を開くことを表しています。安心、安全な社会の実現に向けて、情報セキュリティの世界で皆さんと一緒に夢の扉を開いてゆきましょう。

1982年沖電気工業株式会社に入社。人工知能、自然言語処理の研究開発に従事。機械翻訳システムの開発などを経験し、1998年より、技術経営、経営戦略企画業務に従事。



中央大学
理工学部 情報工学科
教授

牧野 光則
Mitsunori Makino

このプログラムでは、中央大学の建学の精神「實地應用ノ素養ヲ修メ」やこれに基づくユニバーシティ・メッセージ「行動する知性」にも合致した、情報セキュリティの中核分野を深く理解し、長期的な技術の方向性をふまえてマネジメントや研究開発ができる人材を、講義、実践、リサーチを通じて養成します。毎日発生している情報セキュリティ上の課題をも踏まえて考案する、中長期的な解決策を具現化して社会に貢献できる知識、能力、ならびに、行動特性を習得しませんか。幅広いバックグラウンドをもつ皆さんの積極的な参加を歓迎します。

1992年早稲田大・博士(工学)。1992年～中央大学勤務。2004年より教授。2009～2013年理工学部長補佐。2009年～理工学部「段階別コンペティンシー育成教育システム」取組担当。2003～2008年21世紀COEプログラム「電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ」事業推進担当者。2007年～ISS Square 幹事(中大主担当者)。



国立情報学研究所
副所長
アーキテクチャ科学研究系
教授

本位田 真一
Shinichi Honiden

セキュリティ技術の発展に伴い、最新のセキュリティ技術を最大限活用したセキュアなソフトウェアシステムの構築が実現可能な時代になってきました。その時に必要なことはいかにセキュリティ技術をソフトウェアシステムに組み入れるかというソフトウェア工学の問題です。そこで、今回、セキュリティ要求分析、セキュリティ形式仕様書の2講義を開講します。座学を極力少なくし、演習やグループ議論を多くする予定です。現時点では、いずれの講義も国内大学ではここだけでしか実施されていません。ぜひ受講してください。

東京大学大学院教授、早稲田大学客員教授、英国UCL客員教授。情報処理学会フェロー。IEEE Computer Society Japan Chapter Chair、ACM日本支部会計幹事、日本学術会議連携会員。



(国研)産業技術総合研究所
理事

関口 智嗣
Satoshi Sekiguchi

私たちの生活や産業はデジタルシフトによる社会活動の最適化や未来の予測精度が高まっています。超分散されたセンサー群からデータを集め、価値を生み出すデータセンターやクラウドを超越集中化することには経済的合理性がありません。しかし、データ防護セキュリティの観点からすれば大きなリスクを包含することでもあり、費用対効果のアセスメントと運用時のPDCAサイクルが重要になります。このプログラムでは特定の技術を学ぶだけではなく、社会受容性の観点からバランスの取れたセキュリティを考える貴重な機会を提供してくれるでしょう。

1982年東京大学情報科学科卒、1984年電子技術総合研究所入所、並列コンピュータの研究開発に従事。産業技術総合研究所においてグリッド研究センター長として分散コンピューティング(グリッド/クラウド)の研究開発を主導。情報処理学会フェロー。博士(情報理工学)、技術士(情報工学)。



(株)KDDI 総合研究所
取締役 執行役員 副所長
兼 KDDI 株式会社 技術企画本部
情報セキュリティフェロー

田中 俊昭
Toshiaki Tanaka

ICT分野で技術のオープン化が進んでいます。オープン化は低コストや利便性向上などの多くの恩恵を利用者にもたらす半面、仕様が公開されるために様々なセキュリティ問題に直面しなければなりません。また、位置情報サービス、モバイルコマースなど、携帯電話が個人の生活と密接な関係をもつ昨今、利用者のプライバシー保護もますます重要な課題となっています。弊社では、安心・安全な情報通信サービスの実現を目指し、暗号・認証、攻撃検知、ソフトウェア保護などの要素技術から、新たなセキュアサービスを生み出すアーキテクチャに至るまで、幅広い研究開発に取り組んでいます。

1986年大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻。KDD入社、研究所勤務。情報セキュリティ技術、モバイルセキュリティ技術、ネットワークセキュリティ技術の研究開発に従事。2017年4月より現職、工学博士。

Welcome to ISS square

プログラム連携各機関からみなさまへ

TOSHIBA



(株)東芝 研究開発センター
コンピュータアーキテクチャ・
セキュリティラボラトリー
研究主幹

秋山 浩一郎

Koichiro Akiyama

東芝 研究開発センターでは、情報セキュリティを、家電から原子力発電所まで、あらゆるシステムの共通基盤技術として捉え、研究開発を進めています。このため、研究の対象は最先端の暗号技術のみならず、安全で高速な実装技術、暗号技術を応用して映画などの商用コンテンツを違法コピーから守る著作権保護技術、安全なシステムの構築技術に至るまで、多岐に亘っており、標準化活動にも積極的に関わっています。学生の皆さんには、このプログラムを通じて、情報セキュリティの応用の広さと奥深さを知ってもらい、新しい世代を担う技術リーダーとして活躍して頂くことを期待します。

1988年上智大学大学院理工学研究科数学専攻博士前期課程修了。同年東芝に入社。研究開発センターにて文字認識、情報セキュリティの研究開発に従事。専門は公開鍵暗号の設計。工学博士。

HITACHI
Inspire the Next



(株)日立製作所
テクノロジーイノベーション統括本部
システムイノベーションセンター
セキュリティ研究部 部長

鍛 忠司

Tadashi Kaji

企業情報システムばかりでなく、昨今は制御コントローラや産業機械もマルウェアなどの様々な脅威にさらされています。社会インフラシステムを多種多様な脅威から守り、安全な社会活動を確保するには、情報セキュリティ技術を使いこなし、社会インフラ分野の技術と融合させることが求められています。皆様が本プログラムを通じてセキュリティ技術や法制度を体系的に理解し、社会の安心・安全を俯瞰的に設計する視点を持った技術者となられることを期待します。

1996年大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了。同年(株)日立製作所入社。以来、システム開発研究所、横浜研究所にてシステムセキュリティの研究開発に従事。2015年4月より現職。博士(情報科学)

FUJITSU



(株)富士通研究所
セキュリティ研究所長

武仲 正彦

Masahiko Takenaka

サイバ攻撃や情報漏えい等の脅威が広がる中、安心・安全な社会を支えるためにセキュリティ技術は不可欠となっています。一方で、情報セキュリティ人材の不足が深刻となっており、本プログラムのようなセキュリティスペシャリスト育成はますます重要となっています。弊社では、個別の技術だけではなく、システム全体で対費用効果のバランスがとれた安全な企業システムを実現するため、システムセキュリティからプライバシー保護、バイオメトリクス認証まで幅広い研究開発を推進しています。弊社の連携により時代が要請する人材育成を行うISS スクエアの一助となればとと考えています。

1992年大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程前期修了。同年富士通研究所に入社。暗号技術、実装セキュリティ、ネットワークセキュリティ、サイバセキュリティに関する研究開発に従事。博士(工学)

NTT



日本電信電話(株)
セキュアプラットフォーム研究所
所長

大久保 一彦

Kazuhiko Ohkubo

クラウドやIoTによるビジネス/ライフスタイル変革と相まって、国境、リアル・サイバーの境なく広がる脅威が猛威を振るう中、セキュリティ対策は局所に留まらず全体最適を余儀なくされています。NTTとしても、最先端の暗号技術やサイバー攻撃対策技術をコアコンピタンスとし、理論研究からプロダクト/インテリジェンス創出、運用支援といった幅広いR&Dを展開しています。皆さんには本プログラムを通じ、企業が挑む技術開発の動向、法制度等も交えたりスクマネジメントの在り方を感じてもらい、混沌とするサイバーの世界の安心・安全確保に毅然と立ち向かうリーダーとして活躍されることを期待します。

1989年東京大学大学院工学研究科修士課程修了。同年NTT入社、通信網総合研究所配属。2000年MIT/Sloanビジネススクール(MoT)修了。その後、NTTグループ代表CSIRTの統括、各種セキュリティ関連商用プロダクトの研究開発に従事。2016年7月より現職。

IBM



日本アイ・ビー・エム(株)
東京基礎研究所
セキュリティ&サービス
担当

佐藤 史子

Fumiko Satoh

さまざまな物が繋がるようになってきた今、複雑な世界をいかに安全かつ便利にしていくかは、情報セキュリティやプライバシーの知識無くしては実現できません。高度なセキュリティ人材の育成は、今後の世界を支える基盤になるものと考えています。IBMの基礎研究所の一つである東京基礎研究所でも、世界中の研究者と共に様々なセキュリティの課題に取り組んでいます。弊社の連携が、本プログラムに参加されるみなさんが高いセキュリティのスキルを身につけ世界にインパクトを与えられる人材となるための一助になることを期待します。

2001年東京工業大学基礎物理学専攻修了後、日本IBM東京基礎研究所にてセキュリティやプラットフォームに関する研究開発に従事。現在はクラウドのセキュリティやセキュリティ・インテリジェンスの研究を推進。2010年同大学計算工学専攻修了。博士(工学)

NEC



日本電気(株)
技術イノベーション戦略本部長
IoT戦略室
エグゼクティブエキスパート

谷 幹也

Mikiya Tani

現在提供されているサービスは、様々なプレイヤーのサービスが複雑に絡みあい最終的なお客様に提供されています。今後、連携の規模が大きくなり、お客様の要求に応じてダイナミックに連携がなされるようになっていく中で、サービス間の連携やサービス中の処理において、なりすましや情報の漏洩・改竄は、より深刻な問題となってきます。これらを解決するためには、いち早く新たなアーキテクチャにおける脅威・リスクの分析・把握を行い、そして暗号・暗号プロトコル/認証/アクセス制御といった基礎的技術を組合せて対策を講じていく能力が必要となります。本プログラムにおいて、基礎技術の習得と共に現場での課題、必要な能力を吸収し、世の中の安心安全に貢献できる人材となっていたらよいように期待しています。

1988年京都大学工学研究科数理工学修士卒業。NEC入社後、言語解析、自然言語インタフェース、電子図書館、著作権管理システムの研究、セキュリティ研究の技術統括を経て、現在、システムディペンダビリティの中核となるモデル化・評価技術を中心とした研究の統括を行っている。

Panasonic



パナソニック(株)
全社CTO室
ソフトウェア戦略担当 理事

梶本 一夫

Kazuo Kajimoto

ITシステムにおける情報セキュリティについては個人情報流出やクレジットカード情報の流出に伴う被害が想定されます。一方、IoTシステムにおけるセキュリティについてはインフラの停止に伴う社会混乱、自動車のハッキングによる事故など生活や生命に直結するリスクが想定されます。パナソニックは製品やサービスを提供する企業として、ITセキュリティのみならずIoTセキュリティ(製品セキュリティ)にも早期から取り組んでおり、その経験を元に、特にセキュリティとビジネスの両立についてISSスクエアの場で参加者の皆様と議論を深めたいと考えています。

1986年、京都大学大学院工学研究科情報工学専攻修了。同年松下電器産業株式会社(現パナソニック株式会社)に入社。OSのマルチメディア拡張開発、規格化に従事。その後、放送・業務用映像制作設備、デジタル放送送出設備、家電統合プラットフォーム「UniPhier(ユニフィア)」のソフトウェア開発、IoTサービス・機器群開発をチーフアーキテクトとして指揮。現在、IoTセキュリティを含むパナソニック全社のソフトウェア戦略・行政責任者、ならびに全社SEPG(Software Engineering Process Group)リーダーを担当。

MITSUBISHI
Changes for the Better



三菱電機(株)
開発本部 役員技監
松井暗号プロジェクト統括

松井 充

Mitsuru Matsui

私が暗号に初めてかかわった20年前は、研究者人口も少なく、ビジネスもわずかなものでした。当時は、現在のように暗号技術が誰にとっても身近なものになるとは予想すらできませんでした。この分野における当研究所の特長は、暗号理論から実装手法、システム化まで情報セキュリティにかかわるさまざまな専門分野の技術者がひとつのフロアに集結しており、さまざまな視点で議論できることだと思っています。最近では量子暗号のような未来の暗号技術にもチャレンジしています。学生の皆さんには、技術、法律、倫理など幅広い観点から情報セキュリティに取り組まれることを期待します。

京都大学理学研究科数学専攻修士課程卒。三菱電機入社後は誤り訂正技術、暗号技術の研究開発に従事。1999年欧州にて第三世代携帯電話(W-CDMA)世界標準暗号開発に参加。専門は共通鍵暗号の設計・評価。